

■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子

堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

■ 編集後記

ここ2~3年続いたコロナ禍がやっと収まりつつあり、社会活動に対しても制限の解除が行われるようになってきました。埼玉医大の各キャンパスに学生が戻ってきて、少しずつ活気を取り戻しているようです。ただ、感染は収まりつつありますが、未だ全く安心と言える状況ではないようです。各自が自覚を持って行動することが求められています。本号が発行される頃にはコロナ禍がもっと落ち着いているといいのですが…。

埼玉医学雑誌 49 巻 1 号をお届けします。令和になって編集委員長をお勤め頂いた菅澤正編集長からバトンを引き継いだ国際医療センター臨床検査医学の海老原康博が本号より編集委員長を務めさせていただきます。

本号には1原著論文と2症例報告の3論文が納められています。原著論文では、野口翔平先生が帝王切開において、脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 Combined Spinal Epidural Anesthesia (CSEA) と脊髄くも膜下腔に投与する局所麻酔薬を減量させた Sequential CSEA (sCSEA) との比較から sCSEA の有用性を検討しています。症例報告では、清水一先生が歯科インプラント施行から10年目に生じたインプラント周囲歯肉癌の1症例を、もう一つは五十嵐大介先生が免疫チェックポイント阻害薬投与後の腎部分切除術により完全寛解を継続している転移性腎細胞癌症例を報告しています。どの論文も読み応えのある興味深い内容になっています。さらに、研究マインド報告書(2編)、医学研究センター報告と Thesis を6編掲載しています。倫理的配慮からこのところ Thesis の掲載を見合わせていましたが、今号から著者が希望する場合に Thesis を掲載することにしました。埼玉医大での研究活動が実を結び、今後の研究活動における飛躍を期待させる内容になっています。

今年には埼玉医科大学創立50周年の記念すべき年であります。50周年を記念したサイトも新しく開設され、埼玉医大の歴史を振り返ることが出来ます。記念式典も行われ、ノーベル物理学賞受賞者である東京大学の梶田隆章先生には「これからの研究と大学はどうあるべきか」というテーマで特別記念講演頂きました。とても素晴らしい内容ですので、聞き逃した方やもう一度聞きたい方は SMSNET から記念式典動画をご視聴下さい。「埼玉医科大学創立50周年記念特別研究費」が新たに創設され、埼玉医大における研究活動のさらなる発展に寄与するものと期待されます。また、令和2年から RA センターが中心となって発足した「アドバイザー制度」の成果として、科学研究費獲得が順調に増加しています。このように学内の研究活動が活発化していく中で、皆様の研究成果を埼玉医学雑誌へ投稿したくなるように編集委員会も一層努力していかないといけないと考えています。

(海老原康博)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第49巻 第1号

編集責任者

海老原 康博

令和4年8月16日 印刷

令和4年8月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の 5 電話 (082)844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>